

目次

まえがき	i
序章 失業の心理学：研究領域の概観	1
第1節 はじめに	3
第2節 失業問題の範囲	3
1 失業がもたらす社会心理的影響	4
2 心理学における失業者の定義	6
3 失業に対する労働者の反応	8
第3節 失業問題に対する心理学的アプローチ	12
1 心理学的アプローチ	12
2 ヤホダとバツケの対照的な視点	14
3 現代の失業の心理学研究への影響	18
4 資本主義と失業の心理学：ヤホダとバツケが残したもの	20
第4節 雇用と失業の心理学的意味	21
1 心理学における失業の定義	22
2 心理学における雇用の定義	25
3 仕事と雇用の関係	29
4 本書における用語の使い分け	30
第5節 小括	31
1 失業問題への心理学的アプローチ：ヤホダとバツケの対照的視点	31
2 現代の失業の心理学研究への影響と今後の展望	32
第1章 失業の心理学研究の進展と現代的視点	35
第1節 はじめに	37
第2節 失業の心理学研究の基盤と失業者観の変遷	37
1 現代社会における失業者観の形成：歴史的背景と社会的変遷	38
2 現代の失業者観の問題点	41
3 失業の心理学研究の基盤となった経済学の視点	44

第3節 失業の心理学研究の展開と現代的視点の定着	47
1 失業の心理学研究の基礎：初期研究の貢献	47
2 戦後の経済復興から石油危機まで：失業研究の再活性化	60
3 1980年代の雇用不安定化と失業の心理学研究の展開	62
4 メタ分析が明らかにした失業とウェルビーイングの関連性	68
第4節 現代の失業の心理学研究	72
1 失業問題への新たな視点：相対的貧困がもたらす心理的問題	73
2 雇用コミットメント：失業者の働く意欲	76
3 雇用の質とウェルビーイング：「不完全雇用」問題に着目	79
4 失業から成長へ：求職活動の質が鍵	88
第5節 小括	93
1 失業者観の歴史的背景と現代の失業問題の複雑性	93
2 失業の心理学研究の歴史的発展	94
3 現代の失業の心理学研究の多面性	95
4 失業の心理学研究の課題	96
第2章 失業の心理学理論	101
第1節 はじめに	103
第2節 環境中心理論	103
1 段階理論	103
2 潜在的剝奪モデル	107
3 ビタミンモデル	109
第3節 個人中心理論	117
1 エージェンシー制約理論	117
2 経済的困窮／恥モデル	120
第4節 相互作用理論	123
1 対処行動理論	124
2 不一致理論	129
第5節 小括	133
1 環境中心理論の応用可能性	133
2 個人中心理論の応用可能性	134
3 相互作用理論の応用可能性	135

4 失業の心理学理論の今後の課題	136
第3章 求職活動の研究	139
第1節 はじめに	141
第2節 求職活動における自己調整の重要性	142
1 自己調整とは？	142
2 失業から再就職へのプロセスにおける自己調整の位置づけ	144
第3節 なぜ今、「自ら考えて動く」仕事探しなのか？ 変化する社会における求職活動	148
1 インターネット時代の求職活動：主体的な行動と自己管理の重要性	149
2 複雑化する求職活動：情報過多と変化への対応	150
3 働き止めの問題—新型コロナウイルスの影響	151
第4節 自律型求職活動モデル： 求職活動の質を高めるための理論的枠組み	154
1 求職活動と自己調整の関係	155
2 処方箋モデルとしての自律型求職活動モデル	164
3 「プロセスの質」の基準	168
4 自律型求職活動モデルにおける就職の成功のメカニズム	176
第5節 自律型求職活動モデルに関する実証研究	182
1 求職活動の量から質への転換	182
2 カンファーらのメタ分析研究	186
3 バン・フーフトラのメタ分析研究	190
4 自律型求職活動モデルの妥当性	198
第6節 小括	199
1 失業の心理学研究における自己調整理論の位置づけ	199
2 求職活動における質の重視：自律型求職活動モデル	201
3 自律型求職活動モデルの妥当性のさらなる検討	203
第4章 求職活動支援の研究	207
第1節 はじめに	209
第2節 求職活動支援のための理論的枠組みとその統合	210

1	主要な理論的枠組み	210
2	自己調整理論からの理論的統合	222
第3節	求職活動支援研究の方法論の特徴	227
1	求職活動支援研究の基本となる方法論	228
2	求職活動支援研究の対象	230
3	キャリア支援研究との比較	231
第4節	代表的な求職活動支援プログラム	234
1	ジョブクラブ	234
2	ジョブズ	237
3	自己効力感ワークショップ	239
4	筆記開示法	241
5	言語的セルフガイダンス	242
第5節	求職活動支援の研究の背景にある求職者像	244
1	学習理論の人間観	244
2	行動主義モデル	245
3	認知モデル	245
4	社会的認知のパラダイム	246
第6節	小括	247
1	行動主義モデルから認知モデルへ	247
2	社会的認知：環境との相互作用を調整するパラダイムへ	248
3	サイコエジュケーションの重要性	249
第5章	「へこたれない研修」の開発	253
第1節	はじめに	255
第2節	目標志向性を活用した自己調整の促進	257
1	求職活動における自己価値感と目標志向性	258
2	有能さとは何か：ホワイトの理論から考える	260
3	エフェクタンスと求職活動	266
第3節	習得目標志向性研修の効果	268
1	目標志向性と再就職の関係	268
2	目標志向性が認知的自己調整機能に及ぼす影響	270
第4節	自己調整を促進する習得目標志向性研修：内容と進め方	275

1	スケジュールと内容	275
2	トレーナーの役割	281
3	習得目標志向性研修と自己調整の促進	282
第5節 へこたれない研修の開発と効果検証		283
1	へこたれない研修の開発	283
2	モニター調査の実施方法	288
3	モニター調査の結果	293
第6節 小括		311
1	習得目標志向性研修による自己調整の促進	311
2	へこたれない研修の現場での活用	312
付録 尺度の基本統計量		314
第6章 テクノロジーと求職活動		321
第1節 はじめに		323
第2節 インターネット普及による求職・採用活動の変化		323
1	E-リクルートメントとは	323
2	E-リクルートメントの持つさまざまな顔	324
3	E-リクルートメントがもたらした変化	325
4	E-リクルートメント導入への課題	330
5	E-リクルートメントの効果検証	331
第3節 テクノロジーが求職行動に及ぼす影響		332
1	求職活動を動機づける：ゲーミフィケーション	332
2	求職活動をサポートする：ソーシャルロボティクス	335
3	職業理解を促す：仮想現実と拡張現実	337
4	自己理解を支える：自己定量化	338
第4節 小括		341
1	テクノロジーの発展と仕事探しの変容	341
2	テラーメイドな求職活動支援サービスへの展望	342
終章 失業問題への心理学からのアプローチ： 16の提言と未来への展望		345

提言 1：失業者の心理的・社会的困難への支援	
ー 共感にもとづくアプローチ	347
提言 2：失業者への効果的な支援に向けた多角的な研究アプローチ	348
提言 3：失業の心理的リスクの軽減	
ー 雇用機能の分散化と AI による支援	350
提言 4：再就職における雇用の質の影響ー相対的剥奪感への対処	351
提言 5：失業の経験が成長の機会をもたらす	353
提言 6：求職活動における自己調整の重要性	354
提言 7：自己調整のプロセスをモデル化した求職活動マインド	355
提言 8：ストレスや苦痛は求職活動の原動力	357
提言 9：マスタリー目標志向性と求職活動の成功	358
提言 10：へこたれない研修による再就職支援	
ー オンラインプログラムの開発と効果	359
提言 11：求職者像の変遷ー受動から能動、そして自己調整へ	361
提言 12：失業の心理学研究を基盤とした政策展開	364
提言 13：テクノロジー進化とこれからの求職活動	367
提言 14：新たなテクノロジーの活用による	
求職活動支援サービスの進化	368
提言 15：雇用関係の視点から捉える失業と再就職	
ー 心理学研究の新展開	369
提言 16：求職活動マインドによる主体的な雇用関係の構築	372
引用文献	377
索引	397
あとがき	405
著者紹介	414

- ・本文中の注釈については、† を付しているものは本文脚注とし、数字のみは各章末に該当する文献を記載している。
- ・本書では、読者の理解を深め、読みやすさを向上させるため、本文中の英語表記を最小限にとどめている。専門用語の英語表記や原語は巻末の索引に表記しているので、適宜参照いただきたい。